

さまざまな組織と人材が有機的につながる農学生命科学研究科。  
その教育研究活動を支える各部署の役割をご紹介します。

安全衛生管理室 Health and Safety Management Office

# 教育研究活動の現場で 安全衛生を管理する。

安全衛生管理室 副室長兼特任教授 <sup>たかはし かつひこ</sup> 高橋勝彦

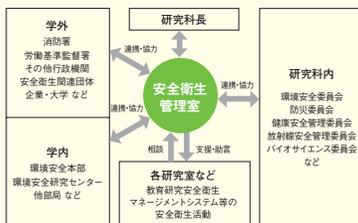
教育研究活動の中でさまざまな実験や野外活動が行われる大学では、そこで生じがちな事故や災害を未然に防ぐ安全衛生管理が欠かせません。このため農学生命科学研究科では安全衛生管理に特にフォーカスした部署を設け、専任職員を配して、事故・災害の防止に努めています。この部署は学内の事務部や全学の環境安全本部と連携し、全附属施設や各研究室の安全衛生管理を徹底させています。いわゆる企業法人の社会的責任 (SR: Social Responsibility) にもつながるその活動の一端をご紹介します。



左より太田室長、高橋副室長、安全衛生管理室のスタッフメンバー



農学部緊急電話(24時間対応)と緊急用トランシーブ



## 管理システムの導入

複数の研究室が多彩な活動を行っている農学生命科学研究科では、各研究室共通の安全衛生活動の仕組みを、全学に先駆け導入しています。これは教育研究安全衛生マネジメントシステム (MS) と呼ばれ、平成18年度の試行を経て、平成19年度から附属施設を含む全研究室で本格的に稼働しています。

MSのベースは一般企業等に採用される労働安全衛生マネジメントシステムですが、私たちはこれを教育研究の現場に適用するよう修正を加えました。その主なファンクションとしては潜在的な危険有害性の評価 (リスクアセスメント) と安全確保技術の伝承があります。実際の活動にあたっては研究科長自らが研究室を訪ね、安全管理上の基準順守を確認しています。これによりこのところ研究室員の安全意識が高まってきました。

## 野外活動の管理

農学生命科学研究科の野外活動は年間約900件にも及びます。学生のみで行う活動も多いため、平成18年度から野外活動安全衛生管理計画書の事前提出を義務づけ、野外活動時の事故防止に努めています。

## 教育啓発活動

また、新しく着任した教職員や新入生に対する安全衛生健康ガイドンス、研究科普通救急救命講習会、消火器による消火練習を含む総合防災訓練、ハト対策など衛生課題の改善などさまざまな活動を行っています。

## 状況把握とアドバイス

その他にも (1) 実験用の化学物質・廃棄物の管理状況の把握と適切なアドバイス提供、(2) 不要な試薬や物品の早期排出の促進、(3) 化学物質や紫外線への露出から身を守る保護具着用に関する助言、(4) 地震など災害時の転落防止対策提示などを行っています。

安全衛生管理室は、労働安全衛生法・消防法等の法令も踏まえながら、今後も農学生命科学研究科における安全衛生管理に努めます。事故や地震など災害時のリスク管理にも力を入れ、社会的存在として研究科がその責任を果たしていくための支援を積極的に進めたいと思います。



2007年4月4日に実施された安全衛生管理ガイドンス



2007年11月30日に実施された総合防災訓練



2007年3月19日に実施された研究科普通救急救命講習会